

令和5年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価(6月末実績)
年度末確定評価

施設名 近代美術館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
- 3 未来を創る子供たちの感性と創造力を育みます。
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

2 現状分析と課題の抽出

- ・出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく企画展・常設展や美術の楽しさを体感できるプログラムの提供に努めているが、今後も更なる充実を図る必要がある。
- ・そのためには美術資料収集基本方針に基づいた体系的なコレクションの形成を目指し、作品の継続的な収集と適切な保存に努めるとともに、美術館活動の基盤となる調査研究を重視しなければならない。
- ・美術館では、展示室に加え、レストランやミュージアムショップなども備えており、より上質な空間とゆとりの時間を提供できるように工夫するとともに、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく、居心地の良い環境となるように老朽化した施設設備の整備に努める必要がある。
- ・また、「MOMASのとびら」をはじめとする、子供向け教育・普及事業を積極的に実施しており、子供たちが感性や創造力を生き生きと発揮できる事業の展開が求められている。
- ・地域の多様な主体との連携に取り組んでおり、今後は、北浦和公園の整備と活用も含め、美術館が主体的に地域の賑わいや活性化に寄与することが求められている。
- ・社会のデジタル化に対応するため、収蔵作品のデジタル・アーカイブ化とその公開を進めるなど、デジタル技術を活用した取組を推進して新たな顧客層の開拓に努めることが必要である。

II 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】

- | | |
|------------------------------|---------|
| ① 美術資料の体系的な収集と適切な保存のための施設の確保 | 令和5～9年度 |
| ② 調査研究と企画展・常設展等の更なる充実 | 令和5～9年度 |
| ③ 利用者のための快適な環境づくり | 令和5～9年度 |
| ④ 子供たちの感性と創造力の育成 | 令和5～9年度 |
| ⑤ 地域の賑わいや活性化の創出 | 令和5～9年度 |
| ⑥ デジタル技術の活用の推進 | 令和5～9年度 |

【取組】

- ① 美術作品取得基金における動産の買戻しへの働きかけと新収蔵庫等の確保
- ② 収蔵作家、埼玉ゆかり作家の調査研究とその成果を生かした展示等の実施
 <企画展・常設展の満足度 各年度90%以上>
- ③ 美術館と北浦和公園の計画的な施設設備の整備
 <改修・修繕件数 R5:30件、R6:30件、R7:30件、R8:30件、R9:30件>
- ④ 子供向け教育・普及事業の充実
- ⑤ 北浦和公園を活用した地域の賑わいや活性化を創出する取組の実施
- ⑥ 収蔵作品のデジタル画像(高精細画像を含む)の公開
 <公開画像件数 R5:1900件、R6:2300件、R7:2700件、R8:3100件、R9:3500件>

(1) 全館共通項目

項目	チェック内容	達成度	達成基準	
			未実施、又は取り組まれていない	1
			実施しているが、取組みが不十分	2
			実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等	
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	2	寄贈による作品収集は行っているが、予算上作品購入が困難な状況。	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3		
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3		
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	予算の範囲内で修復作業を行っているが、十分ではない。	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3		
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3		
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3		
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	作品情報は公開している。画像は、著作権者に意向を伺いながら、可能な作品は、公開の手続きを進めている。	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3		
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3		
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	展示替え毎に、閲覧できる解説カードを設置している。	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	サンデートーク	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3		
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	館内サイン、常設展示の作品名は、英語表記等に対応済み。企画展のコーナー解説や掲出物の翻訳は一部に限る。	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3		
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3		
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3		
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3		
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3		

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	著作権者に了解を得られた資料から順次、デジタル画像等を公開している。
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	2	トイレ等の音声ガイダンスは未実施。
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	2	英・中・ハングル語のフロア案内のみにとどまっている。
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の利活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 近代美術館

(2)館別独自項目

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取り組みが不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容	達成度	課題等
企画展示の実施	① 企画展の理解を深めるため学芸員や関係者による展示解説、講演会等を適宜実施しているか		
	② 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	3	
	③ 外部資金の導入に努力しているか	3	
	④ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
教育普及および連携・支援活動の実施	① 美術や芸術全般に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	3	
	② 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	3	
	③ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	3	
	④ 学校への職員派遣など、授業協力を実施しているか	3	
	⑤ 大学と協働して学生を適切に指導しているか	3	
地域・域協力事業との交流	① 地域・他機関・他美術館との協力事業を実施しているか	3	
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	3	
	③ 北浦和公園を活用した地域との交流・協力事業を実施しているか	3	彫刻あらいぐま、自治会も含めた公園の防災設備の使用訓練等を実施。個人・近隣企業のボランティアによる植栽の手入れ等も実施している。

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	使命1~4 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	259,500	人	66.4%	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値	
				172,362	人			
2	使命1 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	35,000	人	107.8%	基準値: 34,998人 目標参考値: 34,998人 R4年4期4・5月分: 4,547人、R5年1期: 13,301人、2期: 9,008人、3期: 7,001人、4期: 3,867人(3月末時点)	
				37,724	人			
3	使命1~4 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	850	人	66.5%	(年間入館者+アウトリーチ)÷開館日数 (167,976人+4,386人)÷305日	
				565	人			
4	使命2・4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	917,800	件	99.4%	基準値: 917,798件 目標参考値: 917,798件 3月末時点	
				912,242	件			
5	使命1~4 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	270	件	63.3%	基準値: 268件 目標参考値: 268件 3月末時点	
				171	件			
6	使命1~3 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	29,261,000	円	64.6%	* 当該年度予算計上額 使用料及び手数料 15,571,945円 財産収入 3,336,100円	
				18,908,045	円			

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	使命1 展示公開	企画展観覧者	年間企画展観覧者数	43,172	人	62.2%	実施予定の企画展の予算積算人数 戸谷成雄(令和5年度)/5,417人、横尾龍彦/7,868人、イン・ビトウィーン/8,500人、アブソリュート・チェアーズ(令和5年度)/5,066人	
				26,851	人			
2	使命3 学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	40	校	90.0%	基準値: 35校 目標参考値: 35校 学校数は目標値に届かなかったが、団体で利用した人数は令和4年度の1,461人から1,845人に増加している。	
				36	校			
3	使命3 学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	50	校	88.0%	基準値: 46校 目標参考値: 46校 学校数は目標値に届かなかったが、授業回数は令和4年度の118回から152回に増加している。	
				44	校			
4	使命3 子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	1,380	人	100.4%	基準値: 1,371人 目標参考値: 1,371人 31回実施(2回中止)	
				1,386	人			
5	使命1 満足度	アンケート	企画展・常設展の満足度	90%以上	%	100.0%	中期重点目標による取組 企画展: 戸谷成雄(R5年度)95%、横尾龍彦96%、イン・ビトウィーン89% / 常設展: MOMASコレクション(5/13-8/27)96%、(9/2-11/26)99%、(12/2-2/25)99%	
				95.60%				
6	使命2 施設設備の整備	改修・修繕	改修・修繕件数	30	件	116.7%	中期重点目標による取組 業者依頼分: 25件 職員対応分: 10件(トイレ手洗い修繕、照明交換、樹木枝落とし、地階トイレ等部品修理、公園ベンチ修理など)	
				35	件			
7	使命4 デジタル技術の活用	収蔵作品のデジタル画像	公開画像件数	1,900	件	163.2%	中期重点目標による取組 著作権者への意向確認、スキャニング作業、画像処理などが順調に進行し、当初の目標以上を達成できた。	
				3,100	件			

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数
 ※ 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値: 目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取組の概要

施設名

近代美術館

1 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

- 利用者数、利用状況、広聴・広報、経営努力

新型コロナウイルスによる利用者の減少を回復させるため、企画展、常設展等のさらなる周知を図る。

また、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5月8日から5類に変更されたことに伴い、各施設の収容人数制限が緩和されたことから、トークイベントや担当学芸員の作品解説のほか、主催事業の参加者増加が見込まれる。

(2) 館別独自項目

- 企画展

館HPやチラシの配布など広報活動により企画展内容の魅力発信を行い、入館者数の増に結びつけていく。

- 学校との連携

広報活動等を積極的に行うことにより学校の美術館利用を促進し、学校での鑑賞授業回数を増やしていく。

- 子供向け事業

MOMASのとびらなどについて、新型コロナウイルス感染症による人数制限が緩和されることから、よりたくさんの参加者を募ることができるよう、内容の充実と広報活動を進める。

- 情報提供サービス、インターネット活用などの利用状況

美術館に関心を持ってもらえるようホームページの画面をリニューアルする等、広報の充実を図るとともに、年間レファレンス対応件数を伸ばせるよう努める。

- 満足度

企画展・常設展については既に高い満足をいただいております、引き続き高い満足度となるよう、各展示の内容の充実を図っていく。

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

・ 企画展は、本県ゆかりの美術家の活動を紹介した「戸谷成雄 彫刻」と「横尾龍彦 瞑想の彼方」、収蔵品を活用し現代的な視点から紹介した「イン・ビトウィーン」、「椅子の美術館」として知られる当館が美術の文脈における椅子の表現に着目した「アブソリュート・チェアーズ」の4本を開催した。いずれも本県ゆかりの美術家の紹介、収蔵品の活用、「椅子の美術館」としての当館の特色を生かし、充実した展示内容となった。一方で、年間観覧者数は26,851人であり、目標数が43,172人であることから、達成率は62.2%にとどまった。主な原因として、令和4年度から企画展の開催本数を年間5本から3.5本に削減したことが考えられる。今後、より積極的な広報活動や関連事業の開催に力を入れる必要がある。

・ 常設展観覧者数は、37,724人で、目標の35,000人を7.8%上回った。埼玉りそな銀行の協賛で7月15日から8月27日まで「埼玉りそな銀行フリーデー」を開催して常設展観覧料を無料にしたことに加え、各コーナー展示において、「MOMASの海」ではディスプレイに工夫をし、「特集：須田剋太」では当館の収蔵品を多数まとめて展示したことが、成果につながったと分析している。

・ 収蔵作品のデジタル画像の公開に関しては、著作権者への意向確認、スキャン作業、画像処理、写真撮影などが順調に進行し、当初の目標を大幅に上回る数値を達成できた。

・ 学校との連携では、公募プログラム「みつめて、かんじて、たべてみて一作品のみかた・味わいかた」を開催し、129点の応募があった。応募作品の中から7点の受賞作品を選考し、表彰式及び総合グランプリの作品をもとに創作した料理を試食するイベントを開催した（開催に当たっては、埼玉りそな銀行協賛金の一部を活用）。また、応募作品を館内1階に展示し、美術館における教育普及活動を広くアピールできた。

(2) 課題と対応の方向

・ 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類になったことを踏まえ、展覧会の入場人数の制限（常設展50人、企画展100人）、滞在時間の制限（2時間を目安）、及び施設の一部制限（いすなどの利用制限）などを緩和したが、入館者数は新型コロナウイルス感染症拡大以前の状況には戻っていない。このため、美術館に足を運んでいただけるよう、引き続き展覧会、主催事業及び広報活動を通じて、魅力ある美術館となるよう努力する必要がある。

・ 協賛金によって常設展観覧料を無料にする「埼玉りそな銀行フリーデー」など成果をあげることができた。こうした事業を継続させるため協賛等をしていただける当館の支援者を増やす努力と工夫が必要である。

・ 埼玉りそな銀行の協賛のもと、公募展では総合グランプリ作品をもとに創作した料理を試食するイベントを開催したが、次年度以降、同イベントを継続するためには、財源の確保が必要である。

・ 当館の関連事業を開催するあたり、より多くの方々に参加していただき、さらに参加者が展示会場に足を運んでいただくために、関連事業の実施方法などを多角的に検討する必要がある。

2 外部評価委員等によるコメント

・ 最近の展覧会を拝見しているとコレクションを活かして、掘り起こして、検証して、発表していくという充実した展覧会が多い。40周年の企画を拝見しても、やはり蓄積や作品の充実というものが伝わってくる。今後伝えていく、保存していく、公開していくと考えると、恐らく収蔵庫の拡張は喫緊の課題であると想像する。難しいことだと思うが引き続き考えていただけたらと思う。

・ 収蔵に関してだが、1月に地震があった。金沢21世紀美術館は幸いにも大きな被害はなかったと思うが、少し前に台風の際に川崎市民ミュージアムは凄く被害を受けた。日本だと美術館の枠の中だけで収蔵庫を持つと物理的に限度があると思う。震災のことも含めていざという時に大きな違いがある。川崎市民ミュージアムの件は、作品を修復するということを考えさせられた。

・ 評価項目には危機管理の項目がないが、別に取り組んでいるのか。作品の管理や人の管理など色々な管理があるが、危機管理の面での取り組みも検討いただきたい。今の評価はPDCAのサイクルで行っていると思うが、PDCAの良さもあるが一方で動きが悪い、時間がかかるという課題もある。評価の方法は色々あるが、他にOODA(Observe<観察>、Orient<方向づけ>、Decide<意思決定>、Act<行動>)などもある。なぜこれが今注目されているかと言うと動きが早いということのようで、変化の激しい時代にはPDCAの良さとおODAの良さを併せながら評価していった方が良いのではないか、という評価の考え方もあるようだ。ぜひ館独自項目ではそういったものも取り入れる検討をしていただけたらもっと動きが早くできるのではと思う。

その他、作品購入予算の確保、企画展観覧者数の目標未達に伴う今後の対応、寄附や外部資金の活用について複数の委員から意見をいただいた。